**SDGsウィークレポーターが考えた「私たちにできること」**

**石井　優栞（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| 私たちにできること私は5年生になって授業の中で、環境日記を3ヶ月間続けたり、興味のある分野について調べ壁新聞を作成するなど、1年間取り組んできました。友達の一人は食糧問題に取り組んだり、ほかの友達はエネルギー問題に取り組んでいました。みんな興味は様々です。でも、みんなが同じだったら、違う分野のことは、知らなかったかもしれません。それから、全然違うことだと思っていたことも、実はつながっていることに気づくことができました。なので、SDGｓを実現するためには、みんなの意見を聞いて、小さなことをみんなで取り組み、協力していくことが大切だと思いました。私はこれからもSDGｓを意識して生活していこうと思います。 |

**大津紀乃（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| 私たちにできる事は何でしょうか？　さかなクンが私たちにできる事を教えてくれました。・食べ物に感しゃしながら食べる。・節やくする。（物を大事に。）・おふろの水は冷ましてから捨てる。　他にも実際に海に行ってみると良いかもしれません。もしゴミが落ちていたら拾ってください。　これらのような事をすれば０．１％でも環境にこうけんできるかもしれません。 |

**黒田三奈（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| SDGｓ実現のために、私が出来る事は、十二番の「つくる責任つかう責任」です。私の家では、生ゴミを家の庭にうめて、肥料にしています。また、古紙やペットボトル、トレーなどをリサイクルしています。そして、夏には、風呂の水を打ち水や植え木の水やりに使っています。冬は、ゆたんぽを毎日使っているので、そのゆたんぽの中のお湯を、翌日の洗たく温水にしています。これらの事を、これからも継続していきたいです。 |

**武田千裕（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| 海をきれいに！　海をきれいにすることも、SDGｓです。　海をきれいにするためには、ポイすてをしないことが第一歩です。そして、身近なゴミをひろうことが大切です。風や川によって運ばれるゴミは、身近な場所のゴミが少なければ、海のゴミが少なくなるので、海に行けなくても、海をきれいにできます。たくさんの人が取り組めば海はきれいになると思います。 |

**土屋沙南（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| 私にもできるよ！　SDGｓ　SDGｓの実現のために、私にもできることがあると思います。例えば六番の「安全な水とトイレを世界に」です。　水をむだづかいしないことや、油をキッチンペーパーでふき取ってから洗い物をすることなど、かん単なことから始めます。大勢の人が行うことで、SDGｓの実現につながると思います。 |

**中島彩香梨（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| 　私たちは美しい海にするために、出来ることがあります。　一つ目は、プラスチック製品を買わないことです。プラスチックは、太陽光で小さくなり魚がエサと間違えて食べてしまいます。　二つ目は、ゴミを海に捨てないことです。ゴミを捨てると、海の環境が悪くなります。　三つ目は、捨ててあるゴミを拾うことです。ゴミを拾えば、海に入る心配がありません。 |

**平岡優里（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| ＳＤＧｓ実現のためにわたしたちができることは、たくさんの人に伝えることだと思います。まずは、身近な家族や友達から広めていきたいです。１７の目標すべて実現させるのは難しいけど、何か１つでいいから取組んでいけばいいと思います。私は、１３番目の目標を達成するために、プラスティック製品をなるべく使わないようにしていこうと思います。 |

**湊　咲希（安東小学校５年）**

|  |
| --- |
| みんなで目標を達成する　SDGｓ実現のために私達ができることは、みんなで一つになって十七の目標を達成することと、今できることから少しずつ取り組んでいくことです。社会、環境、人間関係など、様々な分野でみんなと協力し、一つになって取り組んでいきたいです。そして、みんなで実現可能なよりよい国をつくっていきたいと思います。 |

**山本乃亜（静岡サレジオ中１年）**

|  |
| --- |
| 　小学校6年の時私は、ニューヨークの国連本部やユニセフを訪問しました。ユニセフで見た横たわった少女と上から様子をうかがうハゲワシの写真は余りにも衝撃的で今も目に焼き付けて離れません。私の思う当たり前の事が世界では決して当たり前ではない事を知りました。今私には何が出来るか。見て見ぬ振りをしない事、世界の現状を理解する事、そして昨年からお小遣いの一部をユニセフに募金しています。少しでも助けになればと思います。 |

**星野杏奈（静岡サレジオ中１年）**

|  |
| --- |
| SDGｓ実現のために定められた目標を学習し、理解していきたいです。それが最初の第一歩だと思います。次に、学校での各教科で行うディスカッションをする際には、友人にSDGｓを知ってもらえるよう、理解してもらえるようにします。私が家族や友人に広めることにより、少しずつかもしれないがいずれ、大勢の人が知ることになります。私はSDGｓを身近な人から知ってもらい、自分自身から行動していきたいです。 |

**大多和美紀（静岡サレジオ中３年）**

|  |
| --- |
| SDGｓウィークレポーターを通して、私ができることは、何でしょうか。学校でSDGｓに関する活動をしています。私は、十七番目のパートナーシップで目標の達成に興味があるので、その活動につながるために、積極的に活動、ボランティアをしたり、勇気をだして意見を自分から言うことができるのではないかと思いました。 |

**木戸なつみ（静岡サレジオ中３年）**

|  |
| --- |
| 中学生という立場で、行動を起こすことは難しいと考えていた。しかし、SDGｓイベントに参加して、もしかしたら自分にできることも多いのかなと思った。例えば、プラスチック問題だけでも、海洋ごみを拾う、ストローの使用量を減らす、分別をするなど、対策は様々ある。一人一人が世界を変える。たとえ、その一人が私のような学生でも良い。世界の持続可能化への大切な地球の一人になりたい。私はそう思っている。 |

**笹田彩華（静岡サレジオ学院中３年）**

|  |
| --- |
| 私ができることは、より人と過ごす時間を長くすることだ。だれかと一緒にいれば、一人でいるより寒さを忘れて、楽しめるし、だれかと一緒にいることで、運動だって楽しめる。暖房を使いすぎたり、ヒーターを使いすぎたりせず、エコになれる。カフェだって二人で行って半分こすれば、ゴミは少なくなる。このように一人でいるより、だれかと、喜びを分かちあっていたほうが、よりエコに暮らせると、気づいた。 |

**鈴木望海（静岡英和女学院高校１年）**

|  |
| --- |
| 「若い世代の私達だから出来ること」私が今回SDGs推進ウィークで行われたイベントで取材をした上でこれからSDGs実現のために私達ができることは「身近なことから取り組む」という事だと私は思います。「やる」と「やらない」では大きく違います。私達が少しでも「やる」事で世界が少しずつ変わり始めるかもしれません。だから、やれる事から考えて行動します。若い世代の私達だからこそやれる事が多くあるので明日からとは言わずに今日から始めたいと思います。　 |

**西沢萌（静岡英和女学院高校１年）**

|  |
| --- |
| 私の通っている高校でも、「SDGs」について項目別にグループになって、解決策などを考え深く学び、その情報を一つのレポートにして学年みんなで分かち合った。SDGsについて学んだ後に、このようなより深くSDGsについて学ぶ機会を頂けて嬉しく思う。2019年1月12日に開かれたSDGsウィーク最終日のTGCの企業・体験ブースを見学しに行った。多くの企業が参加していた。その際に学んだことをまとめたいと思う。今回の見学では「エシカル」という言葉を多く耳にした。聞いたことがある言葉だったが、その時は正確な意味がわからなかった。では、全員が全員「エシカル」という言葉を知っており、意味もわかっているのだろうか。そこで、私はこのレポートでは「エシカル」という言葉に視点をおきたいと思う。≪「エシカル」について≫「エシカル消費」は大きく５つの項目にわかれている。この中でも、私は「社会」という項目に注目した。日本には色々な国からたくさんの商品が輸出される。スーパーに買い物に行けば、〇〇産の野菜や果物が売っている。日本で生活している以上日本だけではなく輸入している国について考える必要があると私は思う。身近なもので考えると日本は、多くのバナナをフィリピンから輸入している。スーパーに行けば同じフィリピン産でも、多くのバナナが並んでいる。さて、皆さんが消費者だったらどちらのバナナを買いますか？・（１）のバナナは皮に傷のようなものはないが、（２）にはある。・価格は（１）の方が（２）よりも安い。見た目と価格だけで比べるのなら、（１）を選ぶ方が多いのかもしれない。しかし、私はSDGsについて学んだのでここで終わらない。学ぶ前の私は、絶対に（１）のバナナを選んでいたと思う。だが、「パルシステム」の方があるお話をしてくださった。そのことにより私の考えは変わった。次に、そのお話の内容を私なりにまとめてみたいと思う。≪食べ物の向こうを考える≫食べ物だけに限らないが、食べ物には消費者がいれば「生産者」がいる。「SDGs」のテーマでもある「誰一人として取り残さない」ためには、私たち「消費者」のことばかりではなく、「生産者」とその周りの人々のことを考える必要がある。私たち消費者からすれば、見た目が綺麗で美味しくて、さらに価格が安ければ文句はない。だが「生産者」の立場に立って考えてみたらどうだろうか。１、見た目が綺麗ということは、多くの農薬を使わなくてはならない。・フィリピンでは、多くのバナナを栽培しているため大量の農薬をまいている。そのため生産者である農家の人々の健康に支障があったり、農園の周りに住んでいる人々にも、悪影響がある。また農園の近くには、学校があるようで子供達にも悪影響が出ないか心配され、外で遊ぶことも強いられている。２、価格が安いということは、生産者の方への配慮が足りない可能性がある。　・大変な労働のわりに生産者の方が得る事のできるお金が少ないようだ。それでは、快適な生活を送ることが難しくなる。このようにこれだけでも、消費者がバナナに求める良い点は、生産者に相当なダメージを与えている。≪私たちが意識すべきこと　大切なこと≫　　・みんなの暮らしをまもる　　・ほんもの実感　暮らしづくりアクション　　・エシカル消費でみんなを笑顔に　　・食べ物は見た目ではない　　・一人ひとりの「選ぶ」で子どもたちに未来を　　・誰一人として取り残さない　　・食べ物の向こうを考える上記のことを意識して、取組んでいる「パルシステム」のプロジェクトについて、紹介したいと思う。１、農薬を一切使わない農薬を使うことによって、フィリピンの生産者の方とその周りの人々は悪影響を受ける。健康にも支障がある。それは、非常に良くないことであり、そのままでは、絶対にいけない。また、消費者にとっても、多くの農薬が使われた食材を食べると、体に悪影響がある。「誰一人として取り残さない」ことが何よりも大切である。生産者、消費者、どちらの立場にとっても、「農薬」を使わないことは大切である。２、生産者の生活を考える安価な商品＝生産者の賃金が、過酷な労働につりあっていない可能性がある。フィリピンの生産者に置き換えて例えると、懸命に栽培したバナナが全て、必ず買い取られるかはわからない。そのため、収入が安定していない。つまり、快適な生活を送ることが難しくなる。子供達は、質の高い教育を受けることができない。このようなことが、日本のバナナ輸入国であるフィリピンで起きていていいのだろうか。私たちが共に、解決すべき問題ではないだろうか。何度も言うようだが、「誰一人として取り残さない」ことが大切である。だから、「パルシステム」は生産者が栽培したバナナは必ず買い取る契約を結んでいる。そうすれば、生産者は安心してバナナを栽培することができる。その安定した収入によって、子供は質の高い教育を受け、快適な生活を送ることができる。「誰一人として取り残さない」という目標に一歩近づいたのではないか。　まとめると、　　・生産者のために　　・消費者のために　　・一人ひとりの「選ぶ」でより良い未来を　一人ひとりが、より良い「選ぶ」選択をすることによってこれからの世界の未来がより良くなっていくのではないだろうか。　このような「パルシステム」の活動は、本当に素晴らしいことだと思うと同時に、このようなプロジェクトをもっと静岡に、日本にそして世界に広めて行く必要があると改めて感じた。私も、実際にこのような「SDGs」について深く考える機会を頂けていなかったら、「エシカル消費」という正確な意味も分からなかったし、日本や世界で起きている問題、日本や世界で広まりつつある、素晴らしい考え方や活動を知ることはできなかった。これから社会に出ていくというこの高校１年という時に、これからの日本そして世界をより良くするために解決する問題にこうして向き合うことができて本当に良かった。　そして、この活動を通して深く学べたことを振り返りながら、今回触れることができなかったSDGsの解決すべき項目について、私なりに考えてみたいと思う。　まだまだ、日本そして世界には解決されずに、まだ問題としても取り上げられていないあらゆる問題がきっとあると思う。　私は、目には見えない課題を見つけ、向き合うことのできる人間になりたい。　新たな考え方を私に与えてくれたこの静岡市のプロジェクトにとても感謝している。　私が生まれ、生活している静岡がSDGsを積極的に推進し、SDGsに関する活動を行っていることを誇りに思う。静岡がより一段と好きになった。　これを読んでくださった方に、再び「どちらのバナナを選ぶか」と問いかけ、（２）でもいいと答えてくれたら私はとても嬉しく思う。 |

**森陽梨（静岡英和女学院高校１年）**

|  |
| --- |
| 私たちが出来ることSDGsについて私たちが出来ることは何か考えてみると、今まではまだ大人じゃないから何もできないと思っていたけれど、そんなことは全然なかった。理由は、学校や普段の生活で少しのことでも気をつけたりすればそれが広まり、大きな第一歩になるかもしれないということに気づいたからだ。何が出来るか。人や国の不平等をなくす 海の豊かさを守る このようなことに貢献できると思った。特に海の豊かさを守るは浜辺にあるゴミを拾ってみたりゴミを海に捨てないことをポスターなどで広めていったりすれば少しではあるけれど貢献できると思う。そして、国や人の平等は、日本人からするとアメリカ人などのことを外人と呼ぶ人がいる。私は何も知らないで外国人の先生の前で外人と言ったことがある。そしたら、私はその先生に注意された。そして外人という言葉は差別だと気づき直すことができた。このように差別も少しの段階から平等になっていって欲しいと思う。 |